

第 50 回

足立区政に関する世論調査

2021(令和3)年 8 月 実施

定住性／大震災などの災害への備え／洪水対策／区の情報発信のあり方／
健康／スポーツ・読書／ビューティフル・ウィンドウズ運動／環境・地域活動／
「孤立ゼロプロジェクト」など／協働・協創／区での取り組み

はじめに

令和3年8月から9月にかけて、無作為抽出した3千人の区民の皆様を対象に実施した「第50回足立区区政に関する世論調査」の結果がまとまりました。

約2年にわたるコロナ禍のさなかに実施した調査であるため、その影響をしっかりと見極めていく必要があります。特に「足立区を誇りに思う」割合が前回と比較して約8ポイント下がったことを重く受け止めています。

世論調査の目的ですが、最も重要なのは、同じ質問を毎年繰り返すことによって、区民の皆様のお考えの変化を読み取ることです。区政が思った方向へ進んでいるのか否かを確認し、必要に応じて施策に修正を加えていきます。

また、質問の答えを、性別・年齢別・地域別等に分類することによって、そこに現れるお考えの違いから、施策のターゲットの絞り込みや、地域別に施策のアプローチを変える等、より効果的な対策を講じることができます。調査結果の本質を見極めて初めて、数字が様々なことを私たちに語ってくれるのです。

区政運営上、やみくもに進んでも、時間やお金を浪費するばかりです。皆様が納付された貴重な税金の使い道を託されている私たち自治体職員には、確かな戦略をもって、効率的、効果的に区政を進めていく責任があります。世論調査はそのために絶対に欠かせないツールなのです。

この度も大変お忙しい中、ご協力いただいた皆様、誠にありがとうございました。お声をしっかりと受けとめて、今後の施策に活かしてまいります。

令和4年3月

足立区長 近藤やよい

目 次

第 1 章 調査の概要	1
1 調査の目的	3
2 調査の内容	3
3 調査の設計	3
4 調査地域	4
5 調査方法	5
6 回収結果	5
7 報告書の見方	7
8 標本構成	10
第 2 章 調査結果の要約	15
1 定住性	17
2 大震災などの災害への備え	18
3 洪水対策	20
4 区の情報発信のあり方	21
5 健康	22
6 スポーツ・読書	24
7 ビューティフル・ウィンドウズ運動	26
8 環境・地域活動	27
9 「孤立ゼロプロジェクト」など	28
10 協働・協創	30
11 区の取り組み	31
第 3 章 調査結果の分析	39
1 定住性	41
（1）居住地域の評価	43
（2）地域の暮らしやすさ	65
（3）特に暮らしにくいと感じること	71
（4）定住意向	75
2 大震災などの災害への備え	83
（1）備蓄や防災用具などの用意	85
（2）備蓄や防災用具、買い置きなどの内容	89
（3）備蓄量	94
（4）災害発生時の水や食料の確保	100
（5）家具類の転倒・落下・移動防止対策	103
（6）対策をしていない理由	106

(7) 地域の3種の避難場所とその意味の認知	109
(8) 避難場所の認知経路	117
(9) 大規模災害時の避難生活場所	120
(10) 大地震の際の防災対策として区に力を入れてほしいこと	122
3 洪水対策	127
(1) 「足立区洪水ハザードマップ」の認知	129
(2) 河川はん濫時の避難場所の事前決定	133
(3) 事前に決めている河川はん濫時の避難場所	136
(4) 河川はん濫時の避難場所を決めていない理由	139
(5) 河川はん濫による浸水被害の際の対処	142
4 区の情報発信のあり方	151
(1) 区の情報の入手手段	153
(2) 重要と考える区の情報	159
(3) 必要な時に必要とする区の情報の入手状況	163
(4) 区の情報が得られない理由	165
(5) 区の情報が得られない理由の詳細	167
5 健康	169
(1) 区のキャッチフレーズの認知状況	171
(2) 糖尿病の進行による病気や障がいの認識	173
(3) 野菜から食べ始めることの実践状況	176
(4) 1日野菜350g以上の摂取	178
(5) 体調や習慣	180
(6) 健康維持のために実行している、心がけているもの	185
(7) 自身の健康状態について	188
(8) がん検診の受診状況	190
(9) 受けたがん検診の種類	192
(10) 決めている歯科医院	194
(11) 歯科医院で治療のほかに受けている内容	196
(12) 感染症予防のための手洗いの実践状況	198
(13) 「ゲートキーパー」という言葉の認知状況	200
6 スポーツ・読書	203
(1) 日常的な運動・スポーツの実施状況	205
(2) 継続的に実施している運動・スポーツ	207
(3) 運動・スポーツを行っている場所	211
(4) 運動・スポーツを行うためのきっかけ	214
(5) 東京2020オリンピック・パラリンピックに向けた区の取り組みで関心があること	216
(6) 新たに始めたいスポーツ、文化、ボランティア活動の有無	219
(7) 新たに始めたい、または活動を継続したいスポーツ、文化、ボランティア活動	221
(8) スポーツ、文化、ボランティア活動を新たに始める場合のきっかけ	224

(9) 区のスポーツ施設における高齢者免除制度に関する意識	226
(10) 読書に関わる行動状況	228
(11) 読書に関わる行動をできなかった・しなかった理由	230
7 ビューティフル・ウィンドウズ運動	233
(1) 「ビューティフル・ウィンドウズ運動」の認知状況	235
(2) 参加している・参加したい「ビューティフル・ウィンドウズ運動」の取り組み	238
(3) 『花のビュー坊プレート』『ビュー坊のガーデンピック』の認知状況	242
(4) 治安が改善していることの認知	246
(5) 居住地域の治安状況	249
(6) 区内の治安が良いと感じる点	253
(7) 区内の治安が悪いと感じる点	256
(8) 治安対策として区に力を入れてほしいこと	260
(9) 駐車時の鍵かけ状況	264
8 環境・地域活動	271
(1) 環境のために心がけていること	273
(2) 食品ロス削減のために心がけていること	276
(3) 日頃から環境への影響を考えた具体的な行動状況	279
(4) 町会・自治会の加入や活動	281
(5) 町会・自治会に加入しない理由	290
(6) この1年間に参加した活動と引き続き、または今後参加したい活動	292
9 「孤立ゼロプロジェクト」など	301
(1) 「孤立ゼロプロジェクト」の認知状況	303
(2) 「地域包括支援センター」の認知状況	306
(3) 高齢者の孤立防止や見守り活動への協力意向	309
(4) 協力意向がある活動内容	312
(5) 「フレイル」にならないための活動の認知と実践状況	314
(6) 「たんぱく質を多く含む食品」の毎食の摂食状況	317
(7) 仕事と仕事以外の生活の調和	320
(8) 「成年後見制度」「身体的暴力以外のDV」「LGBT」の認知状況	323
10 協働・協創	327
(1) 「協創」の認知	329
(2) 協働・協創の実践	331
(3) 区役所・区民・団体の協働や協創による事業推進の評価	333
11 区の取り組み	337
(1) 満足度と重要度	339
(2) 区政への区民意見の反映度	385
(3) 区に対する気持ち	388
(4) 区に対する気持ち（愛着、誇り、人に勧める）の具体的な内容（自由回答）	412
(5) 区を良いまちにするための行動	421

(6) 区政についてのご意見、ご要望（自由回答）	425
(7) 本調査内容の区民ニーズ・意識把握に対する有効度	432

第4章 使用した調査票	435
--------------------	------------

第1章 調査の概要

1 調査の目的

本調査は、区政の各分野について区民の生活実態、意識や意向、意見や要望などを把握し、これを今後の区政運営に反映させることを目的としたものである。

2 調査の内容

今回の調査では11項目について調査した。

- (1) 定住性
- (2) 大震災などの災害への備え
- (3) 洪水対策
- (4) 区の情報発信のあり方
- (5) 健康
- (6) スポーツ・読書
- (7) ビューティフル・ウィンドウズ運動
- (8) 環境・地域活動
- (9) 「孤立ゼロプロジェクト」など
- (10) 協働・協創
- (11) 区の取り組み

3 調査の設計

- | | |
|--------------|-----------------------|
| (1) 調査地域 | 足立区全域 |
| (2) 調査対象 | 足立区在住の満18歳以上の男女個人 |
| (3) 標本数 | 3,000サンプル |
| (4) 調査対象者の抽出 | 足立区住民基本台帳より単純無作為抽出法 |
| (5) 調査期間 | 令和3年8月19日(木)～9月10日(金) |
| (6) 調査機関 | (株)サーベイリサーチセンター |

4 調査地域

図1 地域区分図

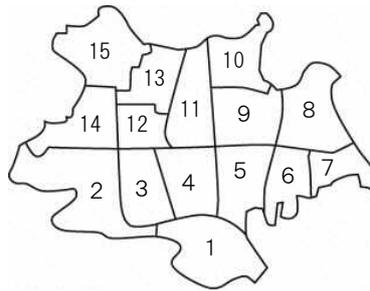


表1 調査地域一町丁目対応表

地域名	地 区 町 丁 目 名
第1地域	千住関屋町、千住曙町、千住東一丁目～二丁目、千住旭町、柳原一丁目～二丁目、日ノ出町、千住橋戸町、千住河原町、千住仲町、千住緑町一丁目～三丁目、千住宮元町、千住中居町、千住龍田町、千住桜木一丁目～二丁目、千住一丁目～五丁目、千住大川町、千住寿町、千住元町、千住柳町
第2地域	小台一丁目～二丁目、宮城一丁目～二丁目、新田一丁目～三丁目、鹿浜一丁目、堀之内一丁目～二丁目、椿一丁目、江北一丁目～五丁目、扇二丁目
第3地域	西新井本町一丁目～五丁目、扇一丁目、扇三丁目、興野一丁目～二丁目、本木一丁目～二丁目、本木東町、本木西町、本木南町、本木北町
第4地域	西新井栄町一丁目～三丁目、関原一丁目～三丁目、梅田一丁目～八丁目、梅島一丁目～三丁目
第5地域	足立一丁目～四丁目、西綾瀬一丁目～四丁目、中央本町一丁目～五丁目、弘道一丁目～二丁目、青井一丁目～六丁目
第6地域	加平一丁目、綾瀬一丁目～七丁目、東綾瀬一丁目～三丁目、谷中一丁目～二丁目
第7地域	東和一丁目～五丁目、中川一丁目～五丁目
第8地域	大谷田一丁目～五丁目、佐野一丁目～二丁目、辰沼一丁目～二丁目、六木一丁目～四丁目、神明一丁目～三丁目、神明南一丁目～二丁目、北加平町、加平二丁目～三丁目、谷中三丁目～五丁目
第9地域	西加平一丁目～二丁目、六町一丁目～四丁目、一ツ家一丁目～四丁目、保塚町、東六月町、平野一丁目～三丁目、保木間一丁目～二丁目、南花畑一丁目～三丁目、東保木間一丁目～二丁目
第10地域	花畑一丁目～八丁目、南花畑四丁目～五丁目、保木間三丁目～五丁目
第11地域	西保木間一丁目～四丁目、竹の塚一丁目～七丁目、六月一丁目～三丁目、島根一丁目～四丁目、栗原一丁目～二丁目
第12地域	西新井一丁目～七丁目、栗原三丁目～四丁目
第13地域	西伊興町、西伊興一丁目～四丁目、伊興一丁目～五丁目、西竹の塚一丁目～二丁目、東伊興一丁目～四丁目、伊興本町一丁目～二丁目
第14地域	谷在家一丁目～三丁目、鹿浜二丁目～八丁目、椿二丁目、江北六丁目～七丁目、加賀一丁目～二丁目、皿沼一丁目～三丁目
第15地域	舎人一丁目～六丁目、入谷一丁目～九丁目、古千谷一丁目～二丁目、古千谷本町一丁目～四丁目、入谷町、舎人町、舎人公園

5 調査方法

- (1) 調査方法 郵送配布郵送回収法（依頼状、督促状ともに1回）
 (2) 調査票 第4章の調査票を使用

6 回収結果

- (1) 標本数 3,000票
 (2) 有効回収数 1,709票 有効回収率 57.0%
 (3) 回収不能数 1,291票 回収不能率 43.0%

- (4) 地域別回収結果

表2 調査地域別回収結果

地域名	18歳以上人口	構成比	標本数	有効回収数	有効回収率
区全体	596,971	100.0%	3,000票	1,709票	57.0%
第1地域	67,679	11.3	335	199	59.4
第2地域	42,071	7.0	212	120	56.6
第3地域	35,577	6.0	180	84	46.7
第4地域	51,302	8.6	259	141	54.4
第5地域	53,878	9.0	272	161	59.2
第6地域	38,812	6.5	196	113	57.7
第7地域	28,915	4.8	146	91	62.3
第8地域	48,238	8.1	244	144	59.0
第9地域	39,819	6.7	201	110	54.7
第10地域	27,999	4.7	141	85	60.3
第11地域	48,618	8.1	246	144	58.5
第12地域	24,826	4.2	125	70	56.0
第13地域	29,525	4.9	149	86	57.7
第14地域	32,203	5.4	163	83	50.9
第15地域	27,509	4.6	131	77	58.8

(18歳以上人口は令和3年7月1日現在)
 ※有効回収数のうち1票は地域不明

第1章 調査の概要

(5) 性別・年代別回収結果

表3 性別・年代別回収結果

性・年代	標本数	有効回収数	有効回収率
全 体	3,000票	1,709票	57.0%
男性（計）	1,503	751	50.0
18～29歳	255	72	30.6
30 代	229	81	35.4
40 代	280	133	47.5
50 代	270	141	52.2
60 代	203	131	64.5
70歳以上	266	190	71.4
女性（計）	1,497	911	60.9
18～29歳	249	83	33.3
30 代	180	99	55.0
40 代	260	167	64.2
50 代	232	150	64.7
60 代	185	130	70.3
70歳以上	391	273	69.8
どちらでもない		2	
無回答		57	

(注) この表での『どちらでもない』は、「性」の回答において、今回の令和3年度より選択肢の表現を変更した「どちらでもない」を選んだサンプルの数を掲載している。

(注) この表での『無回答』は、「性」の回答がなかった方、「年代」の回答がなかった方、又はその両方の回答がなかった方のサンプル数を掲載している。

(注) 「性」を回答していても「年代」を回答していない方（12名）がいるため、各年代の数を足し上げても「性（計）」の数とは一致しない。

7 報告書の見方

- (1) 回答の比率(%) はすべて百分比で表し、小数点第2位を四捨五入した。そのため、百分比の合計が100%に満たない、または上回ることがある。
- (2) 問1の〈居住地域の評価〉における【そう思う(計)】のように、「そう思う」と「どちらかといえばそう思う」等の2つ以上の選択肢を合わせた項目の比率を表記する場合、その比率は、それぞれの選択肢の実数値を合計して、比率を再計算したものを使用している。
- (3) 複数回答の設問は、各選択肢を1つだけでなく、2つ以上選択するため、各選択肢の合計数字が100%を超える場合がある。
- (4) グラフ・数表上の選択肢表記は、場合によっては語句を簡略化してある。
- (5) 集計は、単純集計、フェイスシートとのクロス集計、設問間クロス集計の3種類を行った。
- (6) 性・年代別などのクロス分析の場合、分析軸の「その他」、「無回答」を掲載していないため、調査回答者全員の人数より少なくなることがある。
- (7) クロス集計において、回答対象者の属性毎のサンプル数が30を下回る場合は、誤差が大きくなるため、参考値としての掲載とする。
- (8) 標本誤差

標本誤差とは、今回のように全体(母集団)の中から一部を抽出して行う標本調査では、全体を対象に行った調査と比べ、調査結果に差が生じることがあるが、その誤差のことをいう。この誤差は、標本の抽出方法や標本数によって異なるが、誤差を数学的に計算することが可能である。

今回の調査の回答結果から、母集団(足立区在住の満18歳以上の男女)全体の比率を推定するため、無作為抽出法の場合の標本誤差の〈算出式〉と〈早見表〉を示した。

標本誤差および〈早見表〉は、以下のように使用する。

例えば、問3の「あなたは、足立区に今後も住みたいと思いますか」という質問に対して、「ずっと住みたい」と答えた人は、1,709人のうち36.0%であった。

回答者数が1,709人、回答の比率が40%前後のときの標本誤差は、〈早見表〉では±2.37%であるから、「ずっと住みたい」と考えている人は、足立区在住の満18歳以上の男女全体(母集団)の33.6%から38.4%であると推定できる。

〈標本誤差算出式〉

$$b = 2 \sqrt{\frac{N - n}{N - 1} \times \frac{P(1 - P)}{n}}$$

b = 標本誤差

N = 母集団数 (足立区の18歳以上人口)

n = 比率算出の基数 (回答者数)

P = 回答の比率 (0 ≤ P ≤ 1)

第1章 調査の概要

〈 早見表 〉

回答の比率 (P) 基数(n)	10%または 90%前後	20%または 80%前後	30%または 70%前後	40%または 60%前後	50%前後
1,709	± 1.45	± 1.94	± 2.22	± 2.37	± 2.42
1,500	± 1.55	± 2.07	± 2.37	± 2.53	± 2.58
1,200	± 1.73	± 2.31	± 2.65	± 2.83	± 2.89
1,000	± 1.90	± 2.53	± 2.90	± 3.10	± 3.16
800	± 2.12	± 2.83	± 3.24	± 3.46	± 3.54
600	± 2.45	± 3.27	± 3.74	± 4.00	± 4.08
400	± 3.00	± 4.00	± 4.58	± 4.90	± 5.00
200	± 4.24	± 5.66	± 6.48	± 6.93	± 7.07
100	± 6.00	± 8.00	± 9.17	± 9.80	±10.00

〈 早見表 - 性・年代別 〉

回答の比率(P) 基数(n)		10%または 90%前後	20%または 80%前後	30%または 70%前後	40%または 60%前後	50%前後
全 体	1,709	± 1.45	± 1.94	± 2.22	± 2.37	± 2.42
男性 (計)	751	± 2.19	± 2.92	± 3.34	± 3.58	± 3.65
18～29歳	72	± 7.07	± 9.43	±10.80	±11.55	±11.79
30 代	81	± 6.67	± 8.89	±10.18	±10.89	±11.11
40 代	133	± 5.20	± 6.94	± 7.95	± 8.50	± 8.67
50 代	141	± 5.05	± 6.74	± 7.72	± 8.25	± 8.42
60 代	131	± 5.24	± 6.99	± 8.01	± 8.56	± 8.74
70歳以上	190	± 4.35	± 5.80	± 6.65	± 7.11	± 7.25
女性 (計)	911	± 1.99	± 2.65	± 3.04	± 3.25	± 3.31
18～29歳	83	± 6.59	± 8.78	±10.06	±10.75	±10.98
30 代	99	± 6.03	± 8.04	± 9.21	± 9.85	±10.05
40 代	167	± 4.64	± 6.19	± 7.09	± 7.58	± 7.74
50 代	150	± 4.90	± 6.53	± 7.48	± 8.00	± 8.16
60 代	130	± 5.26	± 7.02	± 8.04	± 8.59	± 8.77
70歳以上	273	± 3.63	± 4.84	± 5.55	± 5.93	± 6.05

(注1) Nはnより非常に大きく、 $\frac{N-n}{N-1} \doteq 1$ とみなせるので、 $\frac{N-n}{N-1} = 1$ として計算した。

(注2) 「年代」においては、「性」を回答していても「年代」を回答していない方、又はその逆に「年代」を回答していても「性」を回答していない方がいるため、各年代の数を足し上げて「性」(計)の数とは一致しない。

(9) 分類した項目の定義

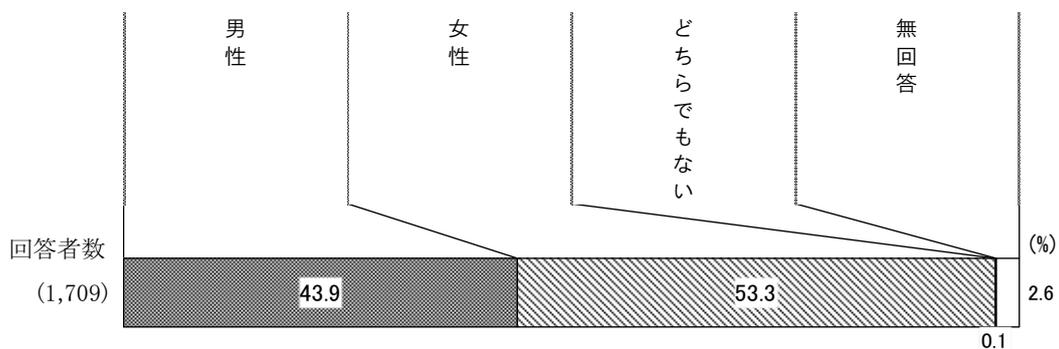
質問に対して、分類（表側）に使用した項目は以下のとおりである。

- ① 地域別 …… (15カテゴリー)
- ② 性別 …… (2カテゴリー) ※性別の「どちらともいえない」は2サンプルのみだったので表側からは割愛した
- ③ 性・年代別 …… (12カテゴリー)
- ④ ライフステージ別 …… (7カテゴリー)
 - ・ 独身期 40歳未満の独身者
 - ・ 家族形成期 40歳未満で子どものいない夫婦、または本人が64歳以下で一番上の子どもが小学校入学前の人
 - ・ 家族成長前期 本人が64歳以下で一番上の子どもが小・中学生の人
 - (家族成長小学校期) 本人が64歳以下で一番上の子どもが小学生の人
 - (家族成長中学校期) 本人が64歳以下で一番上の子どもが中学生の人
 - ・ 家族成長後期 本人が64歳以下で一番上の子どもが高校生・大学生の人
 - ・ 家族成熟期 本人が64歳以下で一番上の子どもが学校を卒業している人
 - ・ 高齢期 本人が65歳以上の人
 - (一人暮らし高齢者) 本人が65歳以上で一人暮らしの人
 - (夫婦二人暮らし高齢者) 本人が65歳以上で夫婦二人暮らしの人
 - (その他の高齢者) 本人が65歳以上で一人暮らし、夫婦二人暮らし以外の人
 - ・ その他壮年期 本人が40歳～64歳で独身、または本人が40歳～64歳で子どものいない夫婦
 - (壮年独身者) 本人が40歳～64歳で独身
 - (壮年夫婦のみ者) 本人が40歳～64歳で子どものいない夫婦
- ⑤ エリアデザイン別① …… (9カテゴリー)
- ⑥ エリアデザイン別② …… (2カテゴリー)
- ⑦ 住居形態別 …… (8カテゴリー)
- ⑧ 職業別 …… (8カテゴリー)
- ⑨ 就労(就学)場所別 …… (6カテゴリー)
- ⑩ 居住年数別 …… (6カテゴリー)

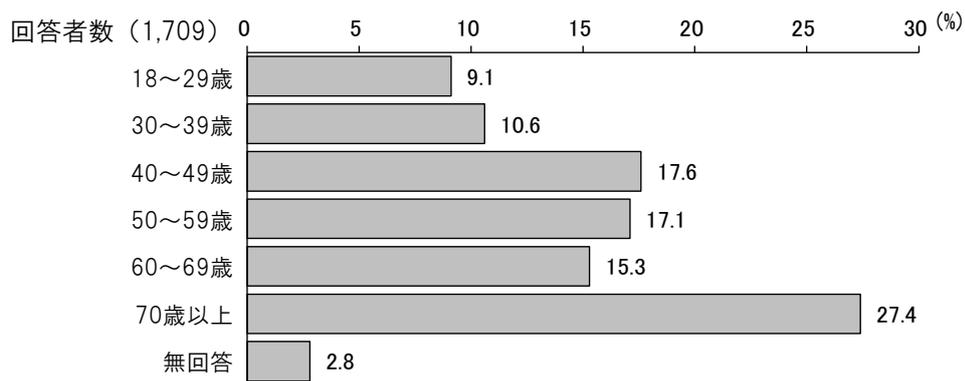
※ 本文中、表側に使用した項目の回答者数が30名未満の場合は、誤差が大きくなるため、参考値としての掲載にとどめ、分析コメントでは言及していないことがある。

8 標本構成

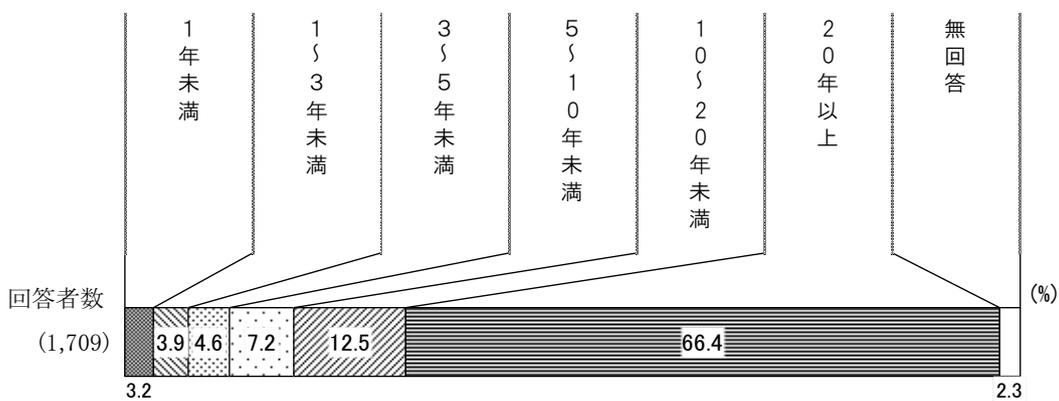
F 1 性別



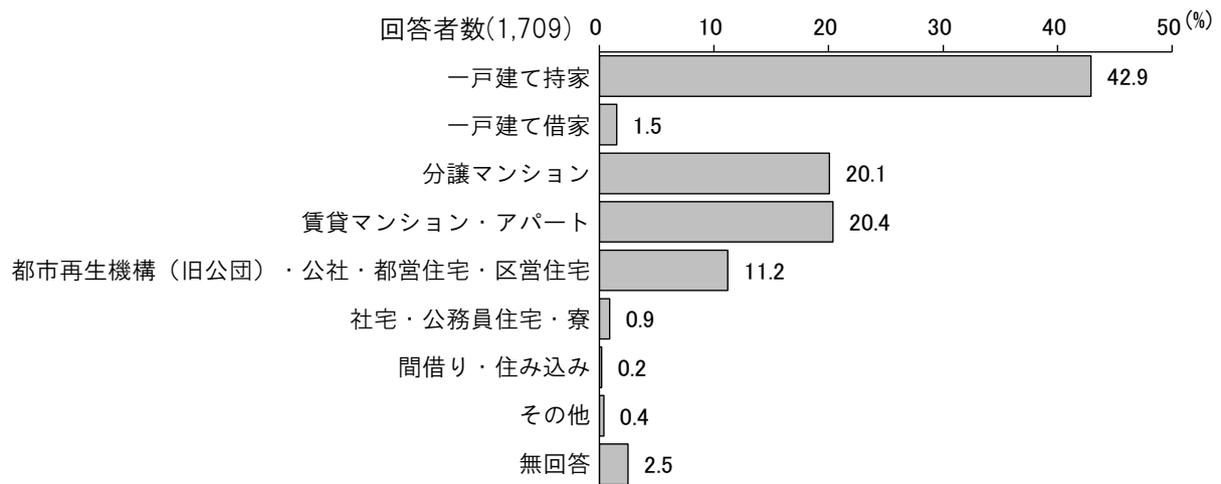
F 2 年齢



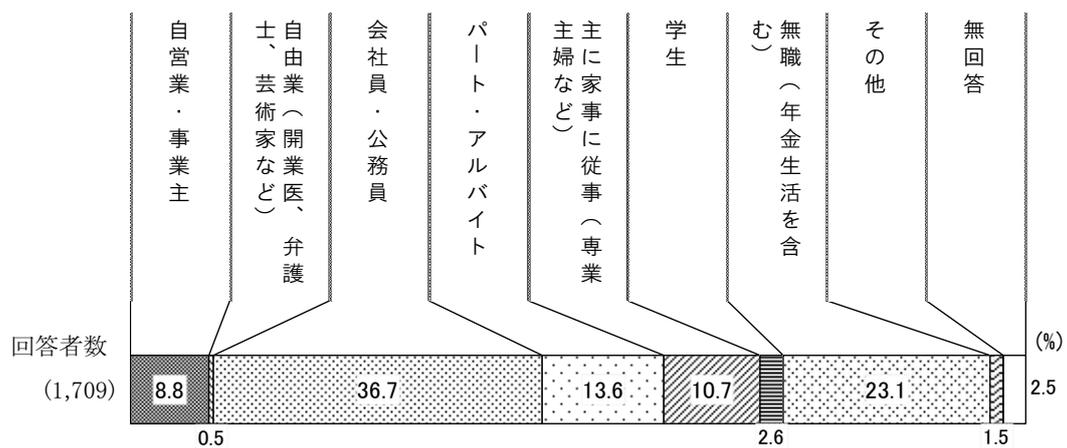
F 3 居住年数



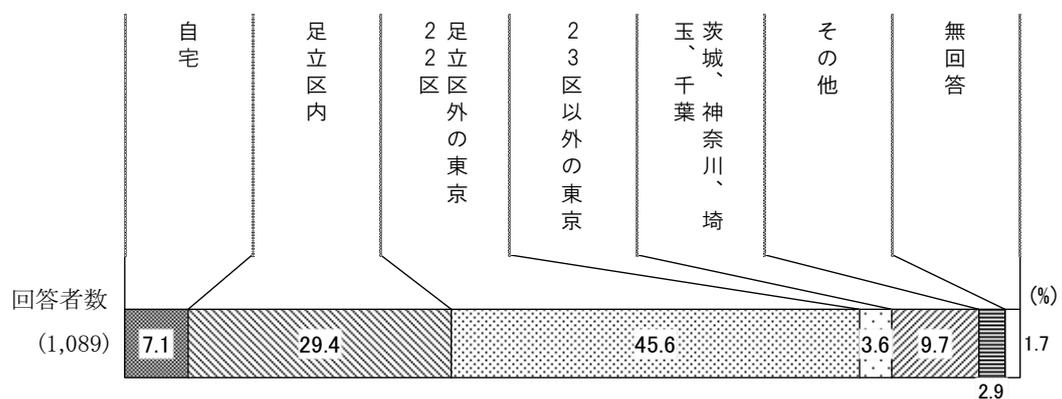
F 4 住居形態



F 5 職業

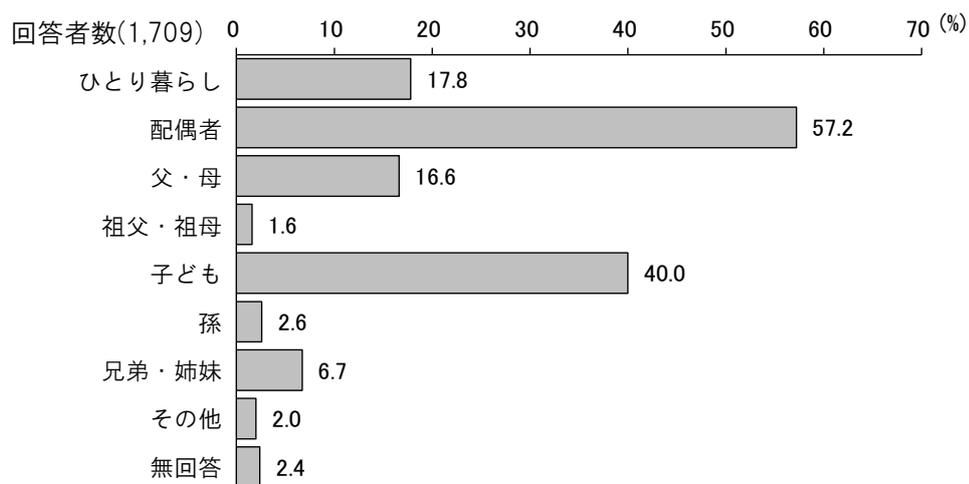


F 6 就労、就学場所【就労者、就学者ベース】

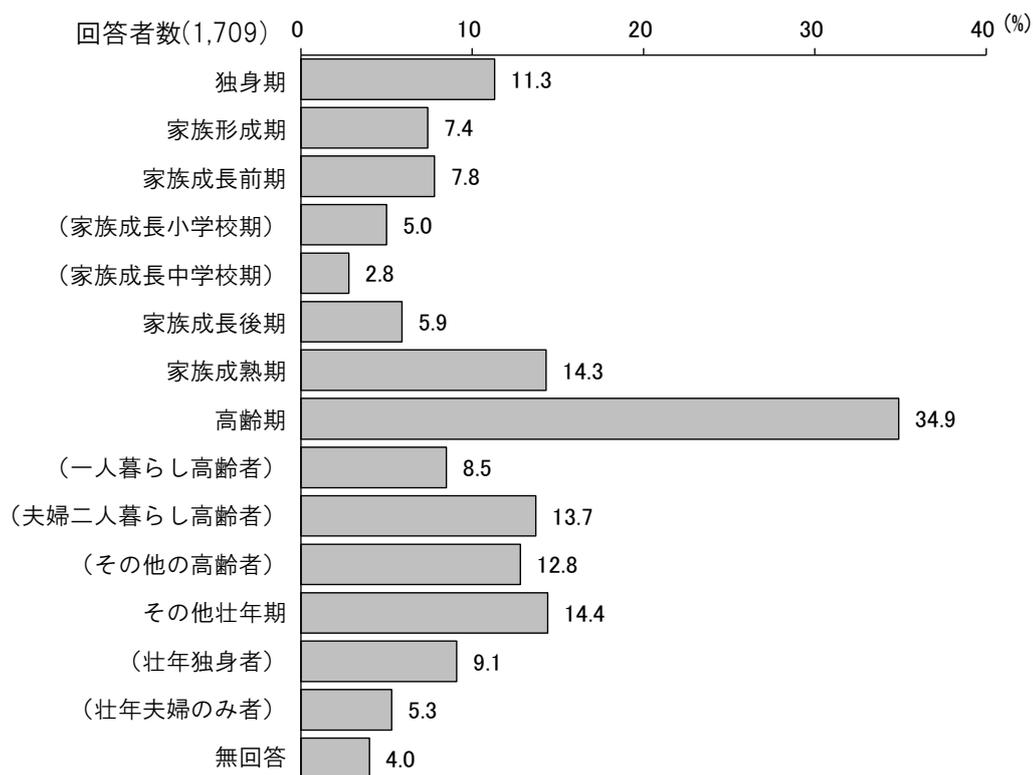


第1章 調査の概要

F7 同居家族（複数回答）



F8 ライフステージ



F9 エリアデザイン

